

# 芸術学

## 芸術学科 芸術学コース

TR テキストレポート科目 TW テキスト作品科目 TX テキスト特別科目 S スクーリング科目 GS 芸術学舎科目 WS Webスクーリング科目 必 必修科目 選必 選択必修科目 選 選択科目

※下記で紹介する科目は2018年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

## 芸術学コース専門教育科目

STEP①

STEP②

芸術活動という営みの意味を見つめるため、既成概念を取り払う。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
1年次～						
芸術学基礎講義	芸術学の学び方		<span>TX</span> <span>必</span>	2		入門的な科目。新入生ガイダンスの機会に、芸術学という学問の性質や、本学の芸術学教育の目標、卒業までの学習手順などについて講義するとともに、今後の各自の研究スケジュールについて考える。
芸術論 I-1	芸術理論		<span>TR</span>	2	有	日本・東洋・西洋の芸術論・文化論に慣れ親しむための入門的な科目。古今東西の芸術や文化について論じたさまざまな著作を読み、一定量の複雑な内容のテキストを精読するための技術と体力を身につける。
芸術論 I-2	デザイン理論		<span>TR</span>	2	有	西洋および日本のグラフィックデザインに慣れ親しむための入門的な科目。近代グラフィックデザインの歴史的流れを知り、またそれらがどのようなメディアや視覚言語、技術や要素によって構成されているのか理解を深める。
芸術論 I-3	芸術鑑賞1 日本・東洋		<span>TR</span>	2	有	日本・東洋美術に慣れ親しむための入門的な科目。各地の美術館や博物館で開催されている日本・東洋美術の展覧会に出かけ、展示されている作品の中から一つを選び、記述することを通じて作品を見る目を養う。
芸術論 I-4	芸術鑑賞2 西洋		<span>TR</span>	2	有	西洋美術に慣れ親しむための入門的な科目。各地の美術館や博物館で開催されている西洋美術の展覧会に出かけ、展示されている作品の中から一つを選び、記述することを通じて作品を見る目を養う。
芸術論 I-5	美術館・博物館の教育普及		<span>TR</span>	2	有	美術館・博物館の教育普及活動(ワークショップ)に参加し、その体験を踏まえて参考文献を読み、レポートを作成する。今日、美術館や博物館の重要な役割のひとつである教育普及について、机上の空論ではなく、多様な視点から主体的に考える力を養う。
芸術論 I-6	地域学		<span>TR</span>	2	有	自分の居住地域もしくは出身地域で聞かれる「歌」や、見られる「表現行為」の分析を通じて地域を理解し、独力で地域のエッセンスを掴む方法を身につける。
芸術学演習 I-1	芸術学基礎演習		<span>TX</span>	2		[芸術研究の基礎概念] 芸術作品の制作や受容に関する基本概念を考察することで、作品に対する理論的な視座を得ることを目指す。
芸術学演習 I-2	美術批評基礎演習		<span>TX</span>	2		[美術批評] 芸術批評の理論と歴史を把握した上で実際に批評を試みる。
芸術学演習 I-3	批評の実践		<span>TX</span>	2		
芸術学 I-3	芸術理論・舞踊論		<span>S</span>	2		[舞踊論]「舞踊(ダンス)」という活動は、現代の社会の生きる私たちにとってどのような意味を持ち得るのか。見るものとしてのダンスではなく、踊る本人にとってダンスはどのような経験なのか、どのような作用を及ぼすのかを中心にこの問題を考える。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学 I-4	芸術理論:表象行為論	S	芸術学 I-1~I-5より 選必	2		[表象行為論]美術史や芸術論といったテキストの解説ではなく、人間がいかにかその肉体と精神を通じて世界と文化的、有機的に関係しているかをダイナミックにとらえていく。
芸術学 I-5	芸術理論:視覚文化論	S	(4単位以上)	2		[視覚文化論]映画、写真、テレビジョン、パノラマ、広告、マンガなど、今日私たちを取り巻く視覚イメージの意味や成立について講じる。
芸術学 II-5	芸術史:西洋音楽の諸相	S	芸術学 II-1~II-5より 選必	2		東ヨーロッパもふくめた、ヨーロッパ音楽の真髄を学ぶ。
芸術学 III-1	美術資料の読み方:日本・東洋	S	選	2		芸術学を学ぶ者にとって文献の読解は必須である。原典に触れながら、基本的な資料の読み方を学ぶ。
芸術学 III-2	美術資料の読み方:西洋	S	選	2		
芸術学研修	芸術学フィールドワーク講義	S	必	1		[現地研修]芸術作品を現地で見学し芸術学の基本的な見方や考え方を学びつつ、学生同士の交流も深める。
芸術学実践	芸術学ワークショップ演習	S	必	1		講義でもなく、鑑賞でもなく、実践(ワークショップ)の授業。クラスによって、顔料に触ったり、デッサンをしたり、音を鳴らしたり、歌や俳句を作ったりして、芸術を実践的に学ぶ。

STEP③

芸術のさまざまな見方や語り方をより深く学び、  
それぞれの研究主題を見い出し、卒業研究への準備をする。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
論文研究基礎		S	選	1		[論文研究]の前段階にあたる科目。論文をどう客観的に読み、問題の所在を見い出していくのかを学ぶ。グループに分かれて実際に論文を読み、グループ内討議を経て問題を抽出していく。こうした実践を経ることによって先行研究に対する客観的批判力を養う。

3年次

芸術学 I-1	芸術理論:芸術環境を巡る諸問題	S	芸術学 I-1~I-5より 選必	2		[芸術環境を巡る諸問題]有名性が作る芸術環境と作品中心の美学との関りを考察する。18世紀から20世紀にかけての芸術的な生産と享受のシステムを歴史的にたどり、それが今日まで抱えている諸問題を検討する。(テーマは毎年変更となります)
芸術学 I-2	芸術理論:芸術学原論(祭礼と感性)	S	(4単位以上)	2		[祭礼と感性]日本各地の祭礼や芸能を取り上げ、宗教的なものと芸術的なものとをどのようにとらえるべきかを考察する。
芸術学 II-1	芸術史:近現代美術の諸相	S		2		[近現代美術の諸相]主に西洋の近現代美術をめぐる諸問題を考察する。19世紀から今日に至るまでの芸術を対象として、その重要なトピックを、言説、政治、歴史、制度といった観点から多角的に検討する。(テーマは毎年変更となります)
芸術学 II-2	芸術史:西洋芸術史の諸問題	S		2		[西洋芸術史の諸問題]芸術と精神分析のかかわりやジェンダーの問題など、芸術史上の今日的なトピックをとりあげ、多面的に考察する。(テーマは毎年変更となります)
芸術学 II-3	芸術史:日本芸術史の諸問題	S	芸術学 II-1~II-5より 選必	2		[日本芸術史の諸問題]日本芸術史の諸問題について、特に近代の芸術のコレクター、支援者であった原三溪を取り上げ、三溪を手がかりに近代美術史の重要な問題について論じる。三溪を軸に見ていくことで、当時の美術を取り巻く様々な様相が明らかになる。(テーマは毎年変更となります)
芸術学 II-4	芸術史:東洋芸術史の諸問題	S	(4単位以上)	2		[東洋芸術史の諸問題]仏教美術の作例を中心に取り上げ、従来の研究成果を振り返りつつ、その研究方法と今後の可能性について考察する。作例を軸とした研究と関連資料の研究の重要性を学び、様々な視点から考察する力を養うことが目標である。(テーマは毎年変更となります)

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
論文研究 I-1		S	必	1		卒業研究の前段階として、研究論文(あるいは研究報告書など)とは何かを理解し、テーマの定め方、資料の収集法、論の構成や書き方、テーマに即した研究成果の報告法を学ぶ。さらに自ら選んだテーマに関する研究の進捗状況をゼミ形式で発表し、指導教員および受講生と討議する。
論文研究 I-2		TX	必	1		「論文研究I-1」のゼミの際に与えられた課題を踏まえてレポートを作成し、講評を受ける。
論文研究 II-1		S	必	1		「論文研究I-1」「論文研究I-2」での指導・講評を踏まえ、各自の研究の進捗状況をゼミ形式で発表し、指導教員および受講生と討議する。
論文研究 II-2		TX	必	1		「論文研究II-1」のゼミの際に与えられた課題を踏まえてレポートを作成し、講評を受ける。

STEP④

芸術の問題を論じる=人間にとっての価値を発見。それを人に伝え、実現する。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
卒業研究		TX	必	8		各自の設定したテーマにもとづく研究を仕上げる科目。「論文研究I-1～2」「論文研究II-1～2」を経て形になってきた研究成果を、指導教員によるレポート添削および個別面接指導を通じて「卒業成果物(卒業論文、試験、研究報告書など)」という形で完成する。

## 芸術学科専門教育科目

芸術学科では、コースの枠を越えて自由に選択することのできる科目群があります。

※各コースの必修科目もあります。(歴必修=歴史遺産コース必修、文必修=文芸コース必修、和必修=和の伝統文化コース必修)

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学概論	S	選	2		さまざまな時代の芸術理論を参考にしながら芸術の基礎的な諸問題を概観する。
日本美術論	S	選	2		日本美術史の時代的特徴、あるいはジャンルの特徴を年代ごとに取り上げ、細部にわたる講義を行う。
西洋美術論	S	選	2		古代から近代に至るヨーロッパ美術の流れを、建築、彫刻、絵画、工芸の各ジャンルの作品を通して、体系的、かつ具体的に理解する。
アジア美術論	S	選	2		[中国] 世界でも類を見ない独特な美術世界を築き上げてきた中国美術について、中国の長い歴史と広大な大地を通して見ていく。 [朝鮮半島] 高麗時代から李朝時代までの約千年の美術史を、仏教絵画、陶磁、世俗画の分野で概観する。
仏教美術論	S	選	2		東アジア諸国に広がっている仏教美術について、その源流となる古代のインド仏教美術を中心としながら、様々な歴史的・地域的展開を概観する。
音楽文化論	S	選	2		音楽を文化社会現象としてとらえ、「音楽は素朴に聞いて楽しめばいい」という命題に潜む「畏」について理解したうえで、音楽の楽しみ方を学ぶ。
文化芸術遺産フィールドワーク 1	S	選	1		芸術学や歴史遺産の視点から、京都・滋賀の神社仏閣、博物館に伝えられる文化芸術遺産について学ぶ。 1日目に教室の対面授業によって訪問先について詳しく学び、2日目は学外研修として学んだ訪問先を実際に訪れる。
文化芸術遺産フィールドワーク 2	S	選	1		
文化芸術遺産フィールドワーク 3	S	選	1		
文化芸術遺産フィールドワーク 4	S	選	1		
地域芸術学フィールドワーク	S	選	1		尾道、沖繩など、日本各地のさまざまな芸術遺産について、地域での現地講義を行う。
歴史遺産学概論	S	選 ※歴必修	2		歴史遺産学を学ぶために大切なふたつの分野(もの(文化遺産))と(ところ(歴史文化))について、歴史文化、文化財科学、保存修復などの各分野の専門教員がおこなうオムニバス講義。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
京都の歴史	S	選 ※歴必修	2		[京都文化論]日本の歴史文化を学ぶために理解しておきたい基本的なことから、京都の歴史を通して、とくに古代から近世の「文化史」という視座から学習する。より深く京都の歴史を知り、さらに日本文化の諸相への歴史的理解を目指す。
文化史特論	S	選 ※歴必修	2		中世史、芸能史、美術史の各研究者による自身の研究の紹介とともに、研究課題に対しどのように新しいアプローチをするのか、どのように史料を扱うのか、どのように論文として構成するのかなどを具体的に語っていただき、論文に取り組むためのさまざまな方法論を学ぶ。
史料学基礎	TR	選 ※歴必修	2	有	歴史を理解し調べる際に必要となるのは遺されてきた史・資料である。歴史的な史・資料には様々な種類があり、その特質など史料論を理解する科目。
史料講読基礎	TR	選 ※歴必修	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料について、古代・中世・近世・近代と各時代のものを取り上げ、基礎・応用と段階を踏んで理解出来る科目群。
史料講読応用	TR	選	2	有	
文献資料講読	S	選	1		古文・漢文などの歴史的な史・史料について、それらを読むための初歩的な科目。漢文の訓読法や訳し方、変体仮名などの基礎を学ぶ。
日本の古典を読む	S	選	2		古典文学の傑作のテクストに基づき、その構想力の広がり学ぶ。
文章表現基礎	S	選 ※文必修	1		一般的な文章表記のルールからはじめ、授業レポートだけでなく、「論文研究」そして「卒業研究」の執筆に必要な論述のテクニック、参考文献の扱い方まで射程に入れ、段階的に複雑な文章を学習する。
日本文化の源流	TR	選	2	有	「和の伝統文化」を幅広い観点から概観して基礎知識を得る為のテキスト科目群。諸々の日本の伝統芸術の源流にある文化や思想を考察する科目、日本の伝統文化と周辺地域の文化の交流史を学ぶ科目、および和食をはじめとする日本の生活文化の背後にある思想を学ぶ科目から成る。
日本文化と東アジア	TR	選	2	有	
日本の生活文化	TR	選	2	有	
伝統芸能の諸相	S	選 ※和必修	1		日本の伝統芸能は成立した時代によって異なる特質を有しています。この科目では、雅楽や今様、田楽、能楽など多様な芸能をとりあげて、時代背景をふまえながらその表現の魅力を考察します。また諸芸能の相互の関係性についても学びます。
伝統芸能と工芸	S	選 ※和必修	1		能や歌舞伎といった伝統芸能には舞や音楽以外にも様々な芸術が関わっています。この科目では特に能面などに代表される工芸分野と伝統芸能の接点を探ります。
絵画と日本文化	S	選 ※和必修	1		絵画もまた日本の伝統文化を語る上で欠かせないものです。この科目では室町時代の禅宗と絵画、あるいは近代日本における絵画など、多角的な視点から日本の絵画文化を学びます。
詩歌と日本文化	S	選 ※和必修	1		和歌や漢詩は古代より日本の伝統芸術の中核を為すものでした。その伝統を受け継いで室町期には連歌が、江戸期には俳諧が隆盛しますが、このような詩歌文化に関して考察する科目です。
花道文化の展開	S	選 ※和必修	1		日本の代表的な伝統文化のひとつである花道は室町時代に形を整え、江戸時代を通じてその思想を発展させてきました。本科目ではその歴史と思想を概観します。
伝統文化の空間	S	選 ※和必修	1		伝統文化が行われる空間、それは伝統文化の内容と切っても切り離せないものです。本科目では茶室や庭園をはじめとする空間の観点から伝統文化の「かたち」を考察します。
室礼ともてなし	S	選 ※和必修	1		お花やお茶、お香をはじめとする室内芸道において、室礼の知識は欠かせないものです。室町時代以降整備されてきた室礼の様式と「おもてなし」の心を学ぶ科目です。
茶道文化の展開	S	選 ※和必修	1		戦国時代から今日に至るまで日本の伝統文化に大きな位置を占めてきた茶道について、歴史の流れや茶人の思想を概観する科目です。
論文研究Ⅲ	TX	選	2		「論文研究I-1～2」「論文研究II-1～2」の単位を修得後、「卒業研究」の着手までに1年以上のブランクができてしまう場合に、「卒業研究」の準備段階にあたるレポートを作成・提出し、教員からの添削・指導を受け、空白期間の学習を補う。
論文研究基礎演習	TX	選	2		論文を批判的に読むことを学ぶ。課題として与えられた芸術学、歴史遺産、伝統文化、文芸に関する論文からどれか一つを選び、批判的に論文を読むことを実践的に学習する。先行研究とどう向き合い、新たにどのような問題提起ができるのかを自ら考察する。

### コースからのスクーリング開講に関するお知らせ

週末を中心とした3日間の開講のほかに、2日間で履修可能な科目が開講されます。卒業要件に必要な単位を京都のみまたは東京のみのスクーリングだけで修得することも可能です。ただし、京都のみ開講、東京のみ開講となる科目があるため、選択によってはその限りではありません。